

科目名		23. 生活行動がしづらいからだⅡ 情報を得てからだが動くしくみ			
履修年次	1年次	科目区分	専門基礎分野	単位数 (時間)	1単位 (30時間)
ディプロマポリシー(DP)	<input type="checkbox"/> 人を大切にするところ <input checked="" type="checkbox"/> 現象を適切に把握し地域で生活する人を支える看護実践力 <input type="checkbox"/> チームの中で連携・協働するための力 <input type="checkbox"/> 専門職業人として自己研鑽する力				
科目目標	人体の恒常性維持のための調節機構(情報受容、処理、伝達)と動くの基本的なしくみが障害された場合に起こるからだの反応と治療過程を理解することができる。また、それらが生活行動に及ぼす影響を理解することができる				
到達目標	人のからだに関心を持ちながら、生活を営むために必要な情報の受けとり、処理と伝達、からだの動くしくみの障害とそれを整えるための方法について説明でき、生活行動への影響について表現することができる				
回	学習項目	学習内容			授業方法
1	① 情報を得る受容器が障害された時の症状① 情報を得る受容器の障害①	『見る』の症状：視力障害、視野異常、色覚異常 『見る』の障害：白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症の病態生理・診断と検査・治療			講義
2	② 情報を得る受容器が障害された時の症状② 情報を得る受容器の障害②	『聞く』の症状：難聴、耳鳴り、めまい 『聞く』の障害：外耳・内耳炎、メニエール病の病態生理・診断と検査・治療 『におう』の症状：鼻閉、くしゃみ、嗅覚障害 『におう』の障害：外鼻疾患、鼻腔疾患、副鼻腔疾患の病態生理・診断と検査・治療			講義
3	③ 情報を得る受容器が障害された時の症状③ 情報を得る受容器の障害③	『味を感じる』の症状：口腔の痛み・腫脹、口腔出血、味覚障害 『味を感じる』の障害：口腔疾患(腫瘍含む)、咽頭・喉頭疾患(腫瘍含む)、唾液腺疾患、頸部疾患の病態生理・診断と検査・治療			講義
4	④ 情報を得る受容器の障害④	『触れる』の症状：発疹、掻痒 『触れる』の障害：湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎の病態生理・診断と検査・治療			講義
5	① 情報の読み取り→記憶→判断→指令が障害された時の症状	意識障害、高次脳機能障害、運動・感覚機能障害、自律性機能の障害、頭蓋内圧の亢進と脳ヘルニア、髄膜刺激症状			講義
6	② 情報の読み取り→記憶→判断→指令の障害①	脳実質の障害：脳血管障害の病態生理・診断と検査・治療			講義
7	③ 情報の読み取り→記憶→判断→指令の障害②	脳実質の障害：脳腫瘍、頭部外傷、脳脊髄液異常の病態生理・診断と検査・治療			講義

8	④	情報の読み取り→記憶→ 判断→指令の障害③	指令伝達の中核障害：脊髄損傷、脊髄腫瘍、脊髄炎の病態生理・診断と検査・治療	講義
9	⑤	情報の読み取り→記憶→ 判断→指令の障害④	指令伝達の末梢障害：ギラン-バレー症候群、筋ジストロフィー、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、SLEの病態生理・診断と検査・治療	講義
10	⑥	脳・神経系の感染症 【侵入者に負けたからだ】	脳炎、髄膜炎、神経感染症の病態生理・診断と検査・治療	講義
11	④	動くが障害された時の症状	疼痛、形態異常、関節拘縮、神経障害	講義
12	⑤	動くの障害①	運動を支える障害(外傷性)：骨折、脱臼、腱・靭帯損傷の病態生理・診断と検査・治療	講義
13	⑥	動くの障害②	運動を支える障害(非外傷性)：関節リウマチ、変形性関節症、骨腫瘍	講義
14	⑦	動くの障害③	運動を支える障害(非外傷性)：骨粗鬆症、脊椎疾患の病態生理・診断と検査・治療	講義
15	①	情報の読み取り→記憶→ 判断→指令→運動が障害された	運動麻痺になると生活の何がしづらくなる？	演習